

4

アレルギー性結膜炎に用いられる点眼薬

アレルギー性結膜炎に処方される点眼薬には、抗アレルギー点眼薬と副腎皮質ステロイド点眼薬（ステロイド）があります。

抗アレルギー点眼薬は、抗ヒスタミン作用を主とするもの（ヒスタミン拮抗薬）と抗ヒスタミン作用を示さないがヒスタミンなどの化学伝達物質（ケミカルメディエーター）の遊離抑制作用を主とするもの（ケミカルメディエーター遊離抑制薬）に分類されます。

ケミカルメディエーター遊離抑制薬はすでに起こっているアレルギー反応には無効ですが、季節性アレルギー性結膜炎の場合、アレルギー反応が反復するので一定の有効性が期待できます。

一方、抗ヒスタミン作用を有するヒスタミン拮抗薬は、すでに起こっているアレルギー反応にもすばやく効果を発揮し、かゆみや充血などの症状を速やかに改善します。

アレルギー性結膜炎には、まず抗アレルギー点眼薬を第一選択薬として使用します。症状が強い場合は内服薬やステロイド点眼薬を併用することもあります。但し、ステロイド点眼薬は副作用が起こることがあり、症状が軽くなれば中止するか点眼回数を減らすようにします。

アレルギー性結膜炎に用いられる主な点眼薬の種類

分類		一般名（商品名）
抗アレルギー点眼薬	ヒスタミン拮抗薬	塩酸レボカバステン（リボスチン）
	ケミカルメディエーター ¹ 遊離抑制薬	フマル酸ケトチフェン（ザジテン） ² クロモグリク酸ナトリウム（インタール） アンレキサノクス（エリックス） ペミロラスタカリウム（アレギサル、ペミラストン） トラニラスト（リザベン、トラメラス） イブジラスト（ケタス、アイピナル） アインタザノラスト（ゼペリン）
ステロイド点眼薬		フルオロメトロン（フルメトロン） メタスルホ安息香酸デキサメタゾンナトリウム（サンテゾーン） リン酸ベタメタゾンナトリウム（リンデロン）

1 ケミカルメディエーター遊離抑制薬：効果の発現は2週間程度必要（継続して使用する）、花粉症の患者さんには飛散2～3週間前からの使用を指導する

2 ヒスタミン拮抗作用を併せもつ

